

第7回オリザ賞準大賞受賞

この度、宮城県農業高等学校農業科作物専攻班が、第7回オリザ賞準大賞を受賞しました。



オリザ賞（主催 宮城県農業協同組合中央会）とは

「コメ」を通じ、農業の振興に大きく貢献し、農業の果たす役割や地域づくりに向けた活動と社会一般へ紹介し農業への理解を促進することを目的とした賞です。

審査講評

宮城県農業高等学校は平成24年、25年と2年間、（株）クボタと連携しながら、3.11で被災した名取市下増田の稲作農家と直播の勉強会及び現地圃場での実証実験を行い、地域営農の復興を支援してきました。その後、平成26年には直播栽培の研究をさらに加速させ、環境保全型稲作はもとより多くの米品種の直播栽培に取り組み、国内初の直播による酒米（蔵の華）を用いた日本酒（宮農復興太鼓）の製造にも取り組みました。直播栽培は現在、消費者に評価されるブランド米づくりの一環として先輩から後輩へとしっかりと引き継がれ、継続的に取り組まれています。

これからの宮城県農業を牽引していく若い世代による地域農業の復興支援と、消費者ニーズを視野に入れながら効率的な稲作生産のみならず6次産業化にも積極的に挑戦している宮城県農業高等学校の取り組みは、きわめて独創的で、かつ賞賛されるべき活動であると評価され、準大賞を授与することが相応しいと評価されました。